

第 37 回リバーカンファレンス

日 時 平成 25 年 3 月 9 日 (土)
午前 9 時
会 場 新潟ユニゾンプラザ 5F
中研修室

2 HBV 再活性化による B 型肝炎の 1 例
(当院の HBV 再活性化対策について)

窪田 智之・石川 達・木村 成宏
堀米 亮子・本田 博樹・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明
小山 覚*

済生会新潟第二病院消化器内科
同 血液内科*

I. 一 般 演 題

1 当院における、エンテカビル投与の現状

五十嵐秀人・大関 康志・上野 亜矢
藤原 真一・小林 由夏・杉谷 想一
飯利 孝雄

立川綜合病院消化器センター内科

【目的】エンテカビルは、B 型慢性肝炎、肝硬変のいずれにも有用で、安全とされている。今回、自院で投与した症例での安全性と効果、問題点を評価した。

【方法】エンテカビルを導入した 28 例について、臨床背景と副作用、ウイルス陰性化率、さらに、投与前後での各種検査値の変動について検討した。

【結果】平均投与期間は、 33.1 ± 20.7 (2 ~ 69 ヶ月) 初回からの導入は 26 例、ラミブジンからの切り替えは 2 例。投与後の副作用出現例は、5 例 (17%) で見られたが、3 例は内服早期に自然消失した。重篤な副作用はなく、中止もなかった。背景は、慢性肝炎 17 例 (61%)、肝硬変 11 例 (39%) 組織は、ウイルスは、最終的に 85.7% (24/28)、平均 7.8 ± 6.6 ヶ月で陰性化した。投与前後の検査値の比較は、投与前が、ALT 78.6 ± 74 IU/l, Alb 3.86 ± 0.6 IU/l, 血小板 13.6 ± 4.7 万/ μ l に対して、投与後は、ALT 22.5 ± 14 IU/l, Alb 4.03 ± 0.5 IU/l, 血小板 16.0 ± 7.8 万/ μ l で、ALT の有意な低下が確認された ($p < 0.0001$)。ALT は、1 ヶ月後 20 例 (71%)、3 ヶ月後 6 例 (21%)、6 ヶ月後 2 例 (8%)、全例で 6 ヶ月以内に正常化した。

【結論】エンテカビルの安全性と有用性が当院でも確認出来た。

3 悪性リンパ腫における HBV・HCV 感染の検討

加藤 俊幸・栗田 聡・青柳 智也
佐々木俊哉・船越 和博・本山 展隆

県立がんセンター新潟病院内科

悪性リンパ腫の anti-HCV 陽性率は 8% と高く C 型肝炎の肝外病変として注目されたが、2001 年から分子標的薬の普及に伴って HBs 抗原の陽性化がみられ、2005 年には劇症肝炎を経験した。血液腫瘍における HBV の再活性化とその劇症化への対策が必要となった。当科では 2004 年から ①治療前に肝炎マーカー一式を検査する、② HBs 抗原陽性例では Rituximab とステロイドの投与を避ける、③ anti-HBc and/or anti-HBc 陽性例にもエンテカビルを予防投与する女す策をとってきた。2004 ~ 10 年の悪性リンパ腫においては anti-HCV (+) 3%, HBsAg (+) 3%, anti-HBc +/- anti-HBs (+) 16% で、計 22% に重症肝炎の危険性があった。